

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 1

2021年4月16日発行

1年のスタートの聖句

『主はすべてのものに恵みを与え

造られたすべてのものを憐れんでくださいます』(詩編145章9節)

4月の聖句『神は愛です』

(新約聖書ヨハネの手紙I 4章16節)

以前、白いスズメのことを書きました。
昨年11月下旬、姿を消し、冬の間、姿を見ることはありませんでした。

3月中旬、再び姿を現しました。

冬の間、どうしているのだろうと心配しておりましたので、その姿を見るや、とても嬉しく小躍りしました。厳しい自然を乗り越えて生きる小さな存在。その生命力に感動を覚えました。そして、深い神様のご配慮を。

新しい年度のスタートです。こどもたちが、たくさんの体験と経験によって成長しますように。神様から与えられている力、賜物、美しい心によって。

チャブレン 司祭 池田亨

4月から、ちゃんとスタートできる嬉しさ!

園長 菊地 和子

春です! 雪で真っ白だった畑も茶色から緑へ。ダイナミックに色が変わり、白鳥がVの字に並んで悠々と飛ぶ姿を見るとわくわくしますね!

去年はこのすばらしい時期にすぐ休園になってしまったのですが、今年はいよいよ開園することになって本当に良かったです。園庭の植物を芽吹いています。春には春の遊びと発見があり、子どもたちにとっては全てが学びです。思いきり春を楽しみましょう!

しろくまちゃんこぐまちゃんは 今まだ全員2歳。ちっちゃくてかわいい。

初めての2歳児クラス「しろくまちゃんこぐまちゃん」

はじめての朝の玄関。

泣き声をきいてママも思わず涙が...

このまち皆さん覚えていますよね。でもみんな2日目でお座りもできてお名前をよんだら手をあげてハイとお返事できたそう

何人かの子はふとママを思い出して泣いて、また遊んでまた泣いて...



とくにお帰りのしたくになると、ママを思い出して会いたくありません。



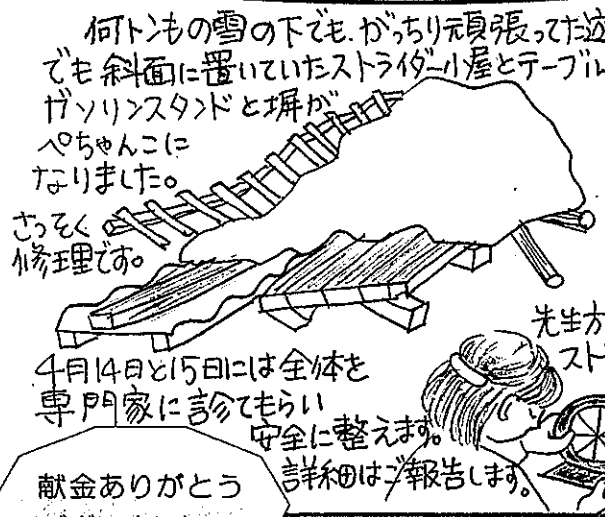
こんなに会いたいと思ってくれる人がいるなんて親なんて幸せなんでしょう! よく「無償の愛」は親から子への愛と思われがちですが、断然子から親への愛だと思います。私たちがどんな親でも子どもはじから愛してくれるからです。

豪雪の下で耐えていた園庭は...

何トもの雪の下でも、がちり元張った遊具たち。でも斜面に置いていたストライダー小屋とテーブル、ガンリンスタンドと塀がベロちゃんこになりました。おろく修理です。

4月14日と15日には全体を専門家に診てもらい安全に整えます。

献金ありがとうございました。



先生方は

「ストライダー」のスキーをはずし、さびをおし準備万端。みんなが乗るのをまっていますよ。



作業しているといつまにか一人増えていきます。お隣のやのさんです。幼稚園では火田の先生だけでなくいつもお世話になってます。

2020年度の後期に、毎週月曜日、子どもたちが献金してくれたお金は、

北海道内で困っている子どもたちのために役立ててもらおうと思っていました。おうちで育てることが難しい、様々な事情を抱えた子どもたちのための里親制度がありますが、聖十字と同じ教会(聖公会)の「網走聖ペテロ教会」の飯野正行司祭ご夫妻も、長いあいだ里親をされてきました。今は、家庭的な環境で数人の子どもたちを育てる「ファミリーホームのあ」として、奥様のまゆみさんが運営しておられます。そちらの施設に献金を送らせていただくことになりました。金額は 80,067円! です。コロナの影響もあり、家庭での児童虐待の件数がかつてないほど増えています。同じ北海道で暮らす子どもたちが、少しでも穏やかな生活を送れるようお祈りしましょう。